



研究者 **小林勝俊** (木曾町立木曾町中学校)

共同研究者 **植原俊晴** (信州大学 助教)

テーマ

生徒理解からはじめる

「一人ひとりが探究的に学ぶ授業づくり」

一人ひとりの探究スキルを伸ばすために

植原先生と、「一人ひとりが探究的に学ぶ授業づくり」を考えていく中で、vol.128(8月発行)に掲載された研究テーマに、「生徒理解からはじめる」と付け加えました。

9月。植原先生と「2年 刺激と反応」の授業を一緒に振り返りました。

その授業で、vol.128に掲載された「自分の授業づくりの課題」を意識しました。まずは、探究する手がかりがない状態で生徒に追究させないように、『脳に刺激が伝わっているのかどうか』という視点を与えたり、『神経系の図の中で刺激が伝わっていく神経を図示しながら』という手がかりを示したりしました。そして、働かせる科学的な見方や考え方も、「同じところや違うところはどこだろう」「日常生活と関連させて考えてみよう」など、具体的に生徒に問いかけました。

すると、植原先生や参観していただいた同僚の先生方から、生徒がはい回ることなく、探究活動が流れていたという振り返りをいただきました。

成果を感じる一方で、「そのような探究につながった私の授業づくりの視点は、質の高い探究スキルが身につけている生徒たちとの授業でも必要な視点であったのだろうか」という疑問も生まれてきました。

2年1組の科学的な探究スキルは、明らかに発展途上です。その、未完成的な部分を補うためにどうすればよいのか、さらに伸ばすためには何が必要なのか。そういう生徒理解が、「一人ひとりが探究的に学ぶ授業づくり」の出発点にあるのではないかと感じています。

当日は、私が研究の中で学んできた「2年1組の授業づくりの視点」を活かし、「抵抗とは何か」に迫りたいと思います。そして、参会者の先生方と、「一人ひとりが探究的に学ぶ授業づくり」について学び合いたいと思います。



共同研究者 植原先生から

理科の見方・考え方を促す教材研究は重要ですが、それだけでは十分ではありません。教師が見方・考え方を自覚し、それを授業計画に反映させて実践することも必要です。その結果として、生徒たちが自然と学びの中に引き込まれ、いつの間にか学びに参加する姿を期待しています。

～日程～

- ① 開会式 13:20～13:30
- ② 研究発表 13:35～13:50
- ③ 研究授業「電気の世界」
14:00～14:50
- ④ 授業研究会 15:00～15:50
- ⑤ おまとめ 15:55～16:25
- ⑥ 閉会式 16:30～16:40